

S M F L みらい、水力取得

北海道の設備 保有会社買収 再生エネ発電拡大

S M F L みらいパートナーズ（東京都千代田区、寺田達朗社長）は水力発電設備の保有に乗り出す。北海道にある二つの水力発電所の設備保有会社を買収した。取得額は数十億円とみられる。水力発電の自社開発にも着手しており、2025年度までに発電容量計1万キロワットを着工し、30年度までに同2万キロワットの稼働を目指す。太陽光や風力発電に比べて気象条件の影響を受けにくく、燃料価格上昇の影響も少ない脱炭素電源として、水力発電の価値を見直す動きを取り込む。

幌満川第二発電所（取得した。対象設備は本電工に、これらの水力発電設備はそれぞれ1940年11月、54年9月に運転を始め、17年11月、19年2月に設備を全面更新した。再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）を活用した発電を行っている。発電容量はそれぞれ4406キロワット、6221キロワット。年間計画発電量は計5600万キロワット時。一般家庭約1万5000世帯分の1年間の電力消費量を賅え、年間約2万5000トンの二酸化炭素（CO₂）排出



発電所を運営する新日本電工に水力発電設備を賃貸する（幌満川第三発電所）

幌満川第一発電所、S M F L みらいパートナーズの持分法適用会社で水力発電の建設コンサルティングなどを手がける、みらいエネルギー・パートナーズ（東京都港区）が設備のアセットマネジメントを担う。同社の知見を生かし、発電量向上につなげる。

削減効果が見込める。S M F L みらいパートナーズは三井住友フ

アイナンス&リース（S M F L）の子会社。太陽光や風力などの再生可能エネルギー発電事業を拡大している。水力発電では18年に設備リース事業を開始。21年には秋田県仙北市の地元企業など5社が設立した地域発電会社に水力発電設備一式をリース提供するプロジェクトファイナンス型リースを実施した。